

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トヨタ紡織 付属歴史展示館	階数	地上1F
建設地	愛知県刈谷市豊田町1丁目1番地	構造	RC造
用途地域	工業地域	平均居住人員	20人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,400時間/年
建物用途	集会所	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2020年4月 予定	評価の実施日	2019年4月3日
敷地面積	24,341 m ²	作成者	石橋
建築面積	136 m ²	確認日	2019年4月3日
延床面積	136 m ²	確認者	細沢



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 2.7 ★★★★★

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算: ①参照値 100%, ②建築物の取組み 76%, ③上記+②以外の 76%, ④上記+ 76%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 4.2

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

3.9

③敷地内の緑化

4.0

外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積) **21.0 %**

建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積) **0.0 %**

②資源の有効活用

3.8

④地域材の活用

4.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

旧ボイラー棟の歴史的レンガを再利用

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

地場タイル

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

重点項目スコアシート

トヨタ紡織 付属歴史展示館

基本設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
② 資源の有効活用				3.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	4.2	0.22	
③ 敷地内の緑化				4.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	外構緑化:21%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	4.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	旧ボイラー棟の歴史的レンガを再利用
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	地場タイル

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 トヨタ紡織 付属歴史展示館

計画上の配慮事項	
総合	地域住民に開放する歴史展示館として計画。紡織産業の歴史と技術を展示することで、伝統継承と地域教育への貢献を期待している。
Q1 室内環境	騒音レベル・開口部遮音性能に配慮した計画としている。
Q2 サービス性能	展示スペースを十分確保した計画としている。
Q3 室外環境(敷地内)	景観に配慮した外構計画としている。
LR1 エネルギー	運用後、グローバル本社と合わせてコミッションングを実施していく。
LR2 資源・マテリアル	アスファルト・インターロッキングブロック・タイルカーペット等のリサイクル材の使用を実施する。
LR3 敷地外環境	歴史的なレンガタイルを外壁材に一部再利用する計画とし、敷地外環境に配慮している。
その他	